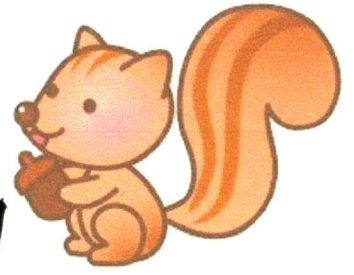




徳成寺

寺もかわら版

第179号 2021年11月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先日、とある神社の鳥居付近でアラフォーぐらいの女性が
神殿に向かって頭を下げているのを見かけました。最近あまり

見かけない風景なので、とっても新鮮に感じました。「お客様は神様

です」と言って頭を下げる人はいても、なかなか本物の神仏に頭を下げる

習慣はありません。11月に入り、親鸞聖人の御命日を縁として報恩講が

浄土真宗のお寺と各ご門徒さんのお内仏で勤まるようになります。どなた様も

御恩を頂いていない方はいらっしゃいません。その御恩の前に、頭が下がるように

なる時、人として生まれ初めて人に成るのだと教え伝えられているのです。

頭を下げたら、負けたことになる世間とは真逆なようですが、心の奥底では

頭の上げようのないような感動的な出会いを欲しているのではないのでしょうか。

「人生とは、報恩です」。ぜひ出会ってみてください。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。先月夫婦共々2回目のワクチン接種を終えました。テレビで報道されている通り、発熱や頭痛などの症状に見舞われ、私も妻も2日ほど寝込みました。国立精神・神経医療研究センターが2月に実施した調査によると、回答した若者の内、11%がワクチンを摂取したくないという結果が出たそうです。若者がどのような背景を持っているのかは分かりません。長期的なリスクを鑑みて忌避しているのかも知れませんが、持病を抱えているかもしれません。個人的にはワクチンは打っておいた方がよいと思っていましたが、いざ副反応で体が弱ると不安でしたし、妻が熱を出してぐったりしている時は心配になりました。ひとり暮らしで生計を立てている人だったらこのような状態に陥った時、どんなに心細い事でしょうか。自分自身がその状況に置かれたいと、その人の気持ちに立つ事ができないという事を改めて学ぶと同時に、少数派を尊重することの難しさを感じました。皆様もお大事になさってください。

